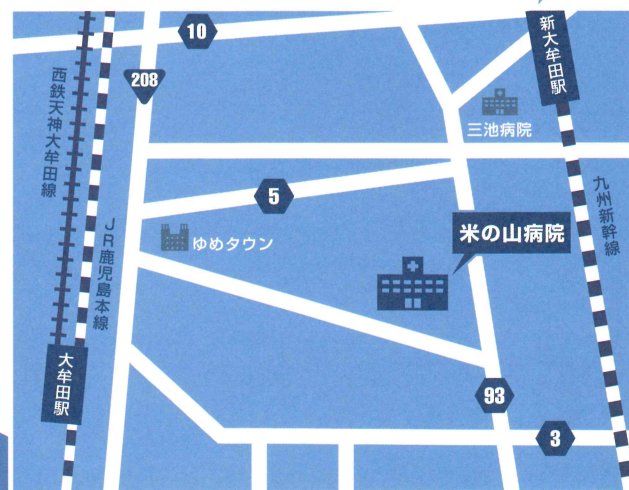


社会医療法人親仁会
米の山病院

〒837-0924 福岡県大牟田市歴木4-10
TEL: 0944-51-3311 FAX: 0944-51-3340
URL: <https://www.kome-net.or.jp/>

米の山病院への
詳しいMAPはこちら



米の山病院 医師・医学生のパージ
<https://komenoyama.com/>



研修医ブログ 徒然日記

<https://kome-resi.blogspot.jp/>



- ・厚生労働省指定 臨床研修病院（基幹型）
- ・（財）日本医療機能評価機構認定病院
- ・NPO 法人卒後臨床研修評価機構認定病院
- ・日本専門医療機構認定
内科専門研修プログラム（基幹型）／総合診療専門研修プログラム（基幹型）
- ・健康増進活動拠点病院（HPH）
- ・無料低額診療事業実施医療機関



JCEP
Japan Council for Evaluation of Postgraduate Clinical Training

Komenoyama Hospital

初期研修医募集のご案内



社会医療法人親仁会
米の山病院

理念・基本方針

● 米の山病院の理念

わたしたちは、患者の権利を守り、安全・安心・信頼の医療・福祉の実現に全力を尽くします。

● 米の山病院の基本方針

1. 地域にやさしい病院づくりをめざします。
高齢化が著しく進む有明地域において、必要な医療・介護が提供できる病院をめざします。
また、差額ベッド料などの差額は徴収しません。
2. 医療の安全性を追求します。
患者・地域住民が、「安心して受診できる」「信頼できる」病院をめざします。
3. 医療機関・施設、地域との連携を推進します。
医療機関・施設との連携をはじめ、友の会と共に地域全体で患者をみていく「地域完結型」の医療・福祉をめざします。
また、平和を守ることや社会保障制度を改善していく取り組みなども広めていきます。
4. 臨床研修病院としての役割を発揮します。
医師をはじめとした医療従事者を確保し、地域に貢献できる医療人を育成します。

研修の特徴！

病院全体で研修をサポート

内科については、3年目以降の後期研修医が指導者となり、卒後10年以上の指導医がサポートしています。また、毎夕、指導医と1日の振り返りを行います。研修医の判断や医療行為の安全面に配慮しています。また、研修担当看護師を任命し、看護師からの指導と系統的評価を行えるよう配慮し、さらに研修担当専任事務を配置し、研修全般の管理と物心両面からのサポート体制を構築しています。他職種からのかかわるようなシステムを構築しています。

研修医カンファレンスの充実を図る

研修医教育のためのカンファレンスを週1回設けています。病歴・身体診察に焦点をあてたカンファレンスと、検査・治療方針に関するカンファレンスに分けることで、獲得目標を明確にして知識の体系化を図っています。さらに、内科・外科指導医による内科症例カンファレンスも毎週1回設けています。

毎日の振り返りを重視

毎月1回の研修評価会議では、単に経験手技・経験症例の確認にとどまらず、significant event analysisにて振り返りを行うことで、経験したことの意味を指導医、指導者と共有する時間を設けています。これにより、研修に対する動機付けを促進し、また研修医自己の課題の明確化を行っています。

外部からのFD指導を積極的に取り入れる

国内外から講師を招聘し、FD向上に努めています。「ドクターG」鈴木富雄先生(大阪医科大学附属病院総合診療科課長)、乗井達守先生(米国・ニューメキシコ大学病院 救急科准教授)などをお招きし、研修医のスキルアップはもちろんのこと、研修指導や指導医に直接ご指導いただくことで、自己満足ではない指導医の能力向上に努めています。

病院情報

● 当院のドクター G が手厚く指導！

【総合診療科】

内科の病気については、すべての疾患を担当しています。ER(救急外来)や一般外来から直接入院する場合が多く、急性期でまだ十分に診断されていない患者さんを担当していきます。

また、研修医の教育機能を受け持ち、研修医・スタッフ・医師で毎日検討会を開き、治療方針等を検討しています。初期研修医が担当して医療の質が落ちることがなく、よりきめの細かい医療を提供できるよう心がけています。

● 診療科目

- | | | |
|---------|---------|---------|
| ◆ 総合診療科 | ◆ 循環器科 | ◆ 呼吸器科 |
| ◆ 消化器科 | ◆ 糖尿代謝科 | ◆ 外科 |
| ◆ 整形外科 | ◆ 皮膚科 | ◆ 泌尿器科 |
| ◆ 小児科 | ◆ 眼科 | ◆ 漢方診療科 |



研修医の声

研修の特徴は？

科によって指導医や上級医がついており、先生達とも距離が近い、基本マンツーマンで指導してもらっています。また、科を超えて指導医の先生がたくさんおり、コンサルトや、相談しやすい環境が整っていて、いい雰囲気です。研修医生活を送っています。

研修医生活を始めてわかったのは、医学生生の時に勉強した知識は研修医になってとても役に立つことなので、学生の時から勉学に励んで国試にむけて頑張ってください。

我有哲郎 医師
初期1年目研修医
佐賀大学2020卒



研修の特徴は？

米の山病院は同期の初期研修医が総勢2名と少なく、そこには少し寂しさを感じますが、少ないが故に先輩医師や他職種のスタッフの方にもよく声をかけていただいていると思います。ぶっちゃけ、最初の頃は処方の出し方や検査のオーダーやら何もかもわからないので迷惑をかけっぱなしになるのですが、そのような時にどんどん相談できるのはやはり研修医の少ない利点なのかなと思います。

僕は4月から6月は消化器内科の先生に主に指導していただいています。病棟の患者さんを診療するのはもちろん、最近是一般外来や救急も始まって毎日なかなか慌ただしいです。その中でうまくいかないことも多いですが、今日分からなかった100個くらいの疑問のうち、明日には5個くらいは分かるようになるのは自分が少し前進しているのかな、と感じます。

佐藤佑紀 医師
初期1年目研修医
佐賀大学2020卒



米の山病院を研修先に選んだ理由は？

米の山病院を研修先に選んだ理由は、奨学生だったという理由もあります。高齢者医療、総合診療であまり科に分かれていなくて一人の先生が幅広く患者さんを診るというところがよかった。緩和ケアなどに興味があり、治療介入がなくて余生を過ごす患者さんの治療や、末期がんなどでも余生をなるべく楽しく過ごしたいという高齢の患者さんを相手にした医療が自分に合っているかなと思ったからです。総合診療でなるべく幅広く研修ができるというのがいいと思います。

一番成長したと思うことは何ですか？

研修を振り返って一番成長したと思うことは「話し方」ですね。いろんな年代の患者さんを受け持つ中で、この年齢の患者さんはこんなことを考えてるよ、こんなことを気にするだろうな、この説明じゃ難しく理解できないかな？...どう話したら分かりやすいかなど、そういう話し方は上手くなったと思います。

副島忠弘 医師
後期研修医
九州大学2016卒



米の山病院の特徴は？

米の山病院のある大牟田市は、高齢の患者さんが多く、全身で診る力が求められます。当院は科の垣根がなく、困ったことがあればローテーションの科に関係なく気軽に相談や質問ができます。

また、職種の垣根も低く、看護師、薬剤師、技師など、コメディカルスタッフの方々にも支えられながら多くを学ぶことができています。病院全体で研修医を育てていこうという雰囲気があり、とても働きやすく勉強になっています。

安波和道 医師
後期研修医
九州大学2017卒



指導医からのメッセージ



研修の特徴は？

当院の初期臨床研修は、地域の中規模病院での少人数できめ細かい研修指導が特徴です。プロフェッショナリズムの獲得という課題とともに、今後、医師として人生を歩んでいく中で、最初の2年間に医師としてのやりがいを実感する事と、自己学習能力を身につけて頂きたいと思っています。当院のプログラムでは、

- ①幅広い診療能力を身につけることができる
- ②病院全体で研修サポートシステムを構築している
- ③研修医カンファレンスや学習会の充実を図っている
- ④毎日の振り返りを重視している
- ⑤豊富な手技・症例を経験できる
- ⑥コンパクトでフレキシブルな研修ができる
- ⑦患者会・地域からも積極的に医師養成にかかわるシステム
- ⑧専任研修事務担当者の配置で安心して研修ができる

ことが特徴です。

中規模病院で症例や手技数が少ないのではないかと心配される方が多いようですが、そんなことは全くなく、上級医、指導医、また担当事務による手厚い研修が可能です。ぜひ一緒に地域医療を実践しましょう。

佐田耕一郎 医師
指導医、副院長
高知大学1997卒
循環器専門医、研修管理
委員長、研修PG責任者



先輩Drからのメッセージ

どんな研修生活を送っていましたか？

今と違って総合内科みたいな感じの研修。各科毎に分かれておらず、消化器も循環器も一緒に診れた。各科で先生が決まっていたり、ICは組みやすいけど、みんな予定が合わず、4回ICみたいな感じで、自分の時間がなく、多忙でクタクタでしたね。

今の研修の良い所は？

実践というか、胃カメラ、心カテが毎週あるから研修が組みやすい。

研修プログラムの魅力は？

消化器で研修はするけど、消化器科であっても、違う病気を持っていることもあるし、実は(例えば...)肺がんもあって、肺がんの説明するとか、管理するとか、他の科の先生と相談しながら...、自分の患者さんに対して責任をもつ、この病気しか僕は診ないよじゃなくて、患者さんを診るっていう姿勢を養えるところがいいことだと思います。大学とかだと、専門性が高くなってから、この病気が診なくて、それ以外のことに限っては他の科にコンサルト、お願いするんですよね。でも米の山病院の研修では、違う科の病気であってもちゃんと自分で管理できるようにならないといけないよという風に自然と指導されるのが魅力です。

医学生や研修医にメッセージをお願いします

うちの研修は、患者さんを診るっていうところと、高齢者がすごく多いので、病気だけでなく、患者さんの生活背景も含めて、この人が何で病気になったのかなとか、どうしたらこの人が病気にならない、病気がひどくならないとか、患者さんのことを親身になって考えられる医者になれると思います。医者として尊敬されるような医者になるには、この研修がすごく勉強になるんじゃないかなと思います。技術的な知識的な所はある程度自分で勉強できるので、ただ自分がどうしたいかを、ここで模索してもらって...色々手伝いはできと思うので、頑張ってください。

川口信之 医師
呼吸器科
久留米大学2014卒



後藤康平 医師
小児科専門医
久留米大学2014卒



米の山病院の特徴は？

私は米の山病院で2年間の初期研修を行いました。初期研修では特別な疾患に対して高度な治療よりも一般的な疾患に対しての基本的なアプローチ、基本的な対応方法を学ぶことが重要です。対応方法というのは教科書的な治療の選択や組み立てだけではなく、患者さん。その人の社会的背景に沿って理想的な対応よりも現実的な対応を考えることもあります。社会的背景に対して多職種での連携が必要になることもあります。もちろん医学的対応に絞っても多職種連携が重要であることはいうまでもありません。私は初期研修と1年間の内科研修の後、小児科で4年間研修をしました。それぞれの病院で疾患に対して専門性の高さは素晴らしい勉強になりましたが、多職種での連携の機会は多くありませんでした。しかし私個人は上記の経験があったおかげで他職種の頼って乗り切った経験も多くありました。

医師として働く上で他職種と相互理解を深め、尊重し、協力し合うことは今後ますます重要です。米の山病院では相対的に症例件数、必要な手技の経験にも事欠きませんが、加えて上記の研修に優れていることが魅力です。皆さん一緒に米の山病院で働きませんか。